

教育目標(めざす児童生徒像) 豊かな心を持ち、自ら学び、実践力のある子どもを育てる。 ○ともに学ぶ子 ○認め合う子 ○たくましい子	今年度の指導の重点 ○ 基礎・基本の徹底と思考力・判断力・表現力の育成を図り、ともに学ぶ喜びと達成感を味わわせる指導に努める。 ○ 豊かな人間性を育み、互いの人権を大切にし、誰とでも仲良くできる子どもの育成に努める。 ○ 心と身体のたくましさを持った子どもの育成に努める。
--	---

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 <全国> ○国語では、A「知識」に関する問題の正答率は県平均と同程度で、B「活用」に関する問題の正答率は県平均を上回っている。 ○算数では、A「知識」問題の正答率は県平均と同程度で、B「活用」に関する問題の正答率は県平均を上回っている。 ○国語Aでは、手紙の構成の理解(本校50.0%、岡山県42.5%)、ことわざの使い方(本校90.5%、岡山県83.7%)が大きく正答率を上回っている。 ○国語Bでは、全ての観点において県平均を上回っているが、記述式の問題に対して無回答率が高く、条件つきで考えを書いたり、まとめたりすることに課題がある。 ○算数Aでは、加法と乗法の混合式(6+0.5×2)の正答率が高い。(本校90.5%、岡山県78.4%) ○算数Bでは、図に表したり(本校88.1%、岡山県82.8%)、平均を求める式を選択(本校73.8%、岡山県67.2%)したりする問題の正答率が高い。しかし、記述式(数学的な考え)に対する無解答率が高い。 ○算数では、すべての領域で県平均より高いが、「量と測定」領域に課題がある。 <県> ○国語では、全ての学年において「読むこと」「書くこと」の領域で+5p県平均を上回っている。 ○算数では、全ての領域で県平均を上回っている。基礎を問う問題より、活用問題の方が正答率が高い。	【学習状況調査の結果】 ○家庭学習では、平日に1時間以上学習する児童の割合は7割を超えているが、復習・予習に取り組む児童の割合は低い。 ○読書に取り組む児童の割合は県平均をかなり上回っている。 ○平日に、ゲームを2時間以上する児童の割合とテレビ・ビデオ等を2時間以上視聴する児童の割合が高い。 ○放課後や休日に、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしている割合がかなり高い。 ○学級の友達との間で話し合う活動を行っていたかに関する回答が低く、自分の考えを説明したり、文章に書いたりする。

成果	課題
○国語の漢字問題の正答率が高く、朝学習や「漢字オリンピック」等の取組の成果が見られる。今後も継続して取り組んでいくことにする。 ○算数では、問題データベース等の活用で、様々な基礎的問題にくり返し取り組んだ成果が見られる。 ○算数・国語とも、活用問題の正答率が上がってきていることから、授業の中で意識的に書く活動を取り入れたり、説明したりする活動を取り入れたり、到達度テストなどを活用して取り組んできた成果が見られる。 ○読書に取り組む児童の割合が高いのは、ふれあい読書や読書週間があることで、本に触れる機会が多いことがプラスに影響している。	○授業において書く活動をしっかり取り入れることにより、記述問題の正答率が高くなってきているが、条件付きでまとめたり、情報過多の問題から選択して自分の言葉で書いたりする問題に課題が見られる。 ○算数では、分数、単位換算、算数用語の意味理解に課題が見られる。 ○宿題に取り組める児童は多いが、自分で計画した勉強や復習や予習に取り組める児童の割合は県平均より低く、改善が必要である。 ○話し合い活動や自分の考えを説明したり、文章に書いたりする活動を意識して取り入れてきたが、活動の仕方・文章の書かせ方に改善が必要である。 ○メディアやゲームの時間が多いため、メディアやゲームの時間を設定したり、ノーメディアDayなどを活用したりして、改善していく必要がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
○条件付きや情報を選択して行う問題の無解答率が高いため、活用力を育てる。	○学習到達度確認テストの実施日を計画し、確実に実施する。(学期ごと)	○全学年、学習到達度テストを完全に実施する。 ○教科のまとめや振り返りを書かせることに、意識的に取り組む。(通年)	○条件を指定して、考えを表現する活動を様々な教科で取り入れる。(各教科で、授業のまとめを書くときに、用語や学数制限を設けたり、条件をつけたりする。)また、4教科の学習到達度確認テストを計画的に活用し、特に活用問題は重点的に扱う。	○どの教科でも、授業の最後に振り返りを書くように意識づけ、自分の言葉で振り返りが書けるようになってきている。その中で、大事な用語などを入れて書くようにしている。	B	○どの教科でも、授業の最後に振り返りを書くように意識づけをおこなってきたので、進んで自分の言葉で振り返りが書けるようになった。また、ふり返りで新たな疑問が生まれ、次時の学習意欲にもつながってきている。	B	○ふり返りを書くことは定着してきたので、ふり返りの質を向上させるために書くポイントを明確にしたり、児童に紹介したりしながら、次時につながるようにしていきたい。 ○ふり返りを書くことに抵抗がなくなってきたが、説明を書いたり、条件付きで書いたりすることには、苦手意識もあるため、来年度改善できるように重点課題としていきたい。
○自分で計画して復習や予習に取り組む力を育てる。	○宿題調べを毎日行い、学期に2回ずつ評価する。	○自主学習ノートの提出率85%を目指す。	○自主学習の取り組みを充実させ、自分で計画して復習や予習に取り組む。内容の良いものや工夫のあるノートを賞揚し、各学年ごとに掲示する。	○内容の良いものや工夫があるよーノートにコメントを書き、他児童にも参考になるように3~6年のものを1階ホールに掲示している。自主学習ノートの提出率は、約85%であるため、さらに改善できるように声をかけ、賞揚していく。	A	○自主学習ノートの提出率は、約85%である。児童が積極的に「やりがい」と思える自立が必要である。内容の良いものや工夫があり、参考になる3~6年のノートのコピーを1階ホールに掲示しているが、見る児童も限られてきたので、改善が必要である。	A	○自主学習の提出率は、85%で概ね達成できているが、学年が上がるにつれ、内容が薄まった。内容を充実させる必要がある。また、宿題調べの紹介をしたり、提示の方法を工夫したりしていきたい。 ○重点課題としては、家庭学習を学校と協力して取り組んでいけるようにしていく。
○児童の自己肯定感や自己有用感を向上させる。	○取り組み後や年度末に児童アンケートを実施する。	○全学年80%以上の児童の自己肯定感や自己有用感の向上を目指す。	○児童同士が「いいこと」や「がんばっていること」を見つける「すてきボックス」の取組や委員会活動などで学校で役に立つ行動をとったときに、児童にフィードバックできるようにする。	○「すてきボックス」の取組を通して、意識して同学年や他学年の児童を見るときで、他者理解・承認・愛着できるようにしたり、自己肯定感も向上させてきている。引き続き、児童の行動を全体でフィードバックしていく。	B	○「すてきボックス」の取組を通して、継続していく中で、他児童のすてきな行動に気づく児童が増えたり、「すてきボックス」で紹介された良い行動を真似したりする児童も増えた。他者理解・承認・愛着できるようにしたり、自己肯定感も向上させてきている。児童の行動を全体でフィードバックしていく。	B	○「すてきボックス」の活動を続けていく中で、自己肯定感や自己有用感が高まっているが、日常生活の中で自然に声かけあう姿やまじり増していけるようにしたい。 ○「すてきボックス」以外の活動の中で、学級や学年でも進言を通して、自己肯定感や自己有用感を向上させる取り組みをおこなっていく。

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○小中の系統的指導について研修を深め、今後の指導に生かすために、中学校区で授業参観をしたり、研修をしたりする。 ○義務教育9年間の連続性のある指導の研究、取り組みの交流をする。(生活目標や学習規律など) ○「家庭教育のすすめ」に基づく実践交流・実践計画をおこなう。	○学年始めや学期始めに家庭学習の手引き・学習スタンダードを保護者に配布し、家庭でも学校とベクトルを合わせて指導しているように協力をお願いしている。 ○学校支援ボランティア事業で、学習・環境・安全支援で地域人材を活用し、活動を通して地域と学校をつなぎ、地域の中の学校として一緒に子どもを育てていけるようにする。